

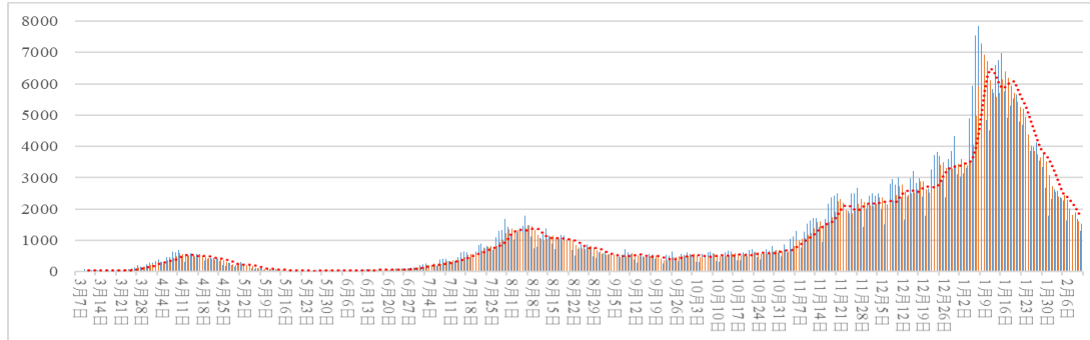
新型コロナウイルス感染症
流行シミュレーション作成事業
結果（2021年2月15日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

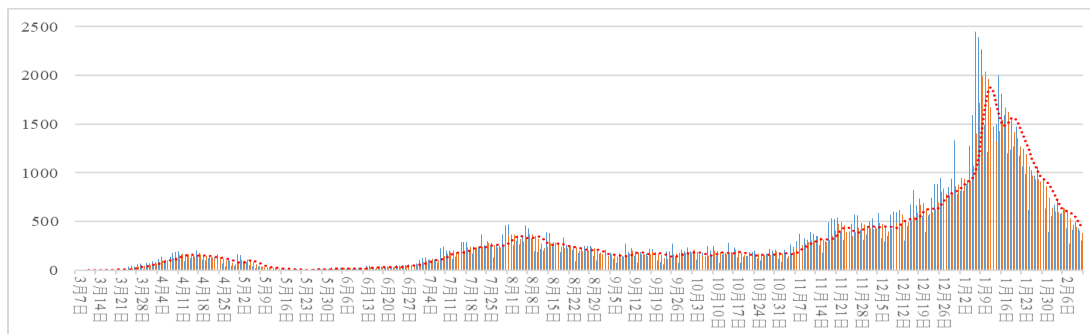
I 流行のリアルタイム評価

- 全国，東京都ともに，PCR陽性者等の報告数は，年末年始の活動で急激に増加し，その後は一気に減少していた。年明け後は，人の活動パターンが通常に戻ったためと考えられる。

全国



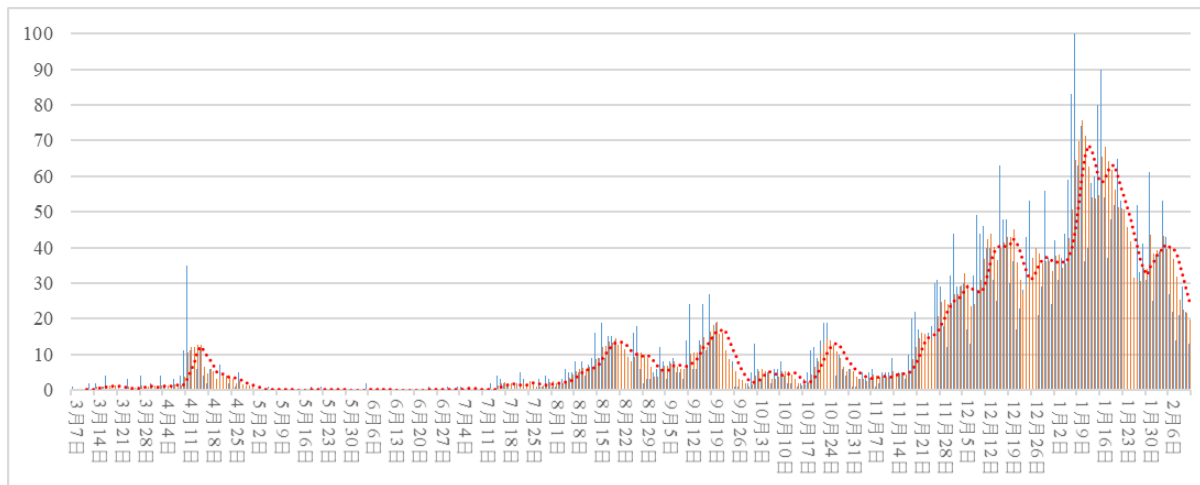
東京都



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

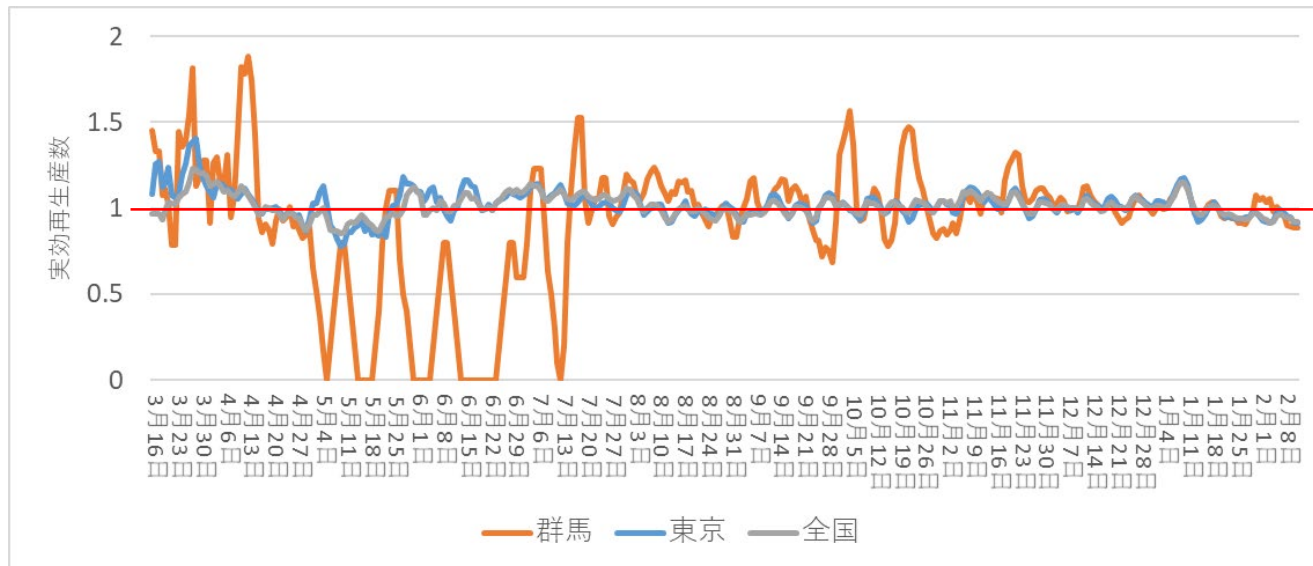
- 群馬県も全国と同様に，年末年始の増加の後に減少を認めた。
- 全国や東京都と同じく，ヒトの文化的な活動(帰省，会食等)に伴う変動であると考えられる。



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

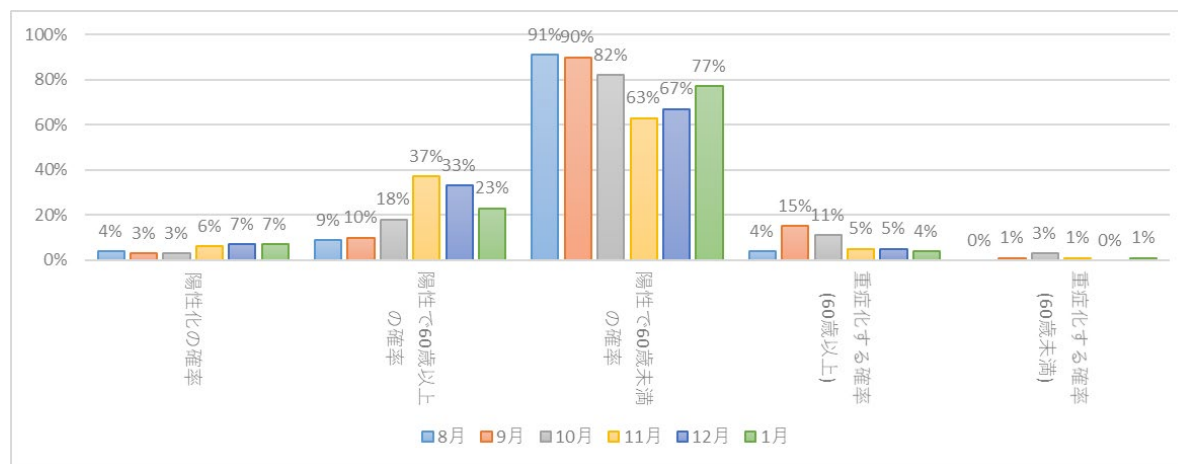
I 流行のリアルタイム評価

- 実効再生産数は年末に1を超えていたが，年明けの活動以降は1を下回る期間が増えた。最新値は，全国0.92, 東京都0.91, 群馬県0.89である。
- ヒトの活動の増減に一致した実効再生産数の変動を認めた。



Ⅱ PCR陽性者等検査結果予測

- 月別のPCR検査(抗原検査含む)件数から陽性者が出る確率をベイズ推定した(過去6か月分)。
- 検査の陽性率は7%(95%確信区間7-7%)変化なし。
- 陽性者のうち60歳以上の確率は23%(21-25%)に減少し、再び陽性者は若年化の傾向を認めた。
- 陽性者が重症化する確率は60歳以上で4%(2-7%), 60歳未満で1%(0-1%), 前回とほぼ同様だった。



まとめ

- PCR陽性者等は，年末年始に急増し，その後は再び減少していた。この結果より，わが国のヒトが集合する文化的な活動に伴い，容易に感染は拡大することが示唆された。
- 1月は，PCR検査が陽性化する確率は7%で変動していなかった。感染は60歳以上の世代では減少し，活動的な若年の世代で拡大していた。
- 今後も，時季的なイベントによりヒトが集合すると，それに伴い感染が拡大すると予想される。引き続き時季的な活動(年度末など)に合わせた対策を行うことが重要であると考えられる。